

## 第 64 回九州経済同友会大会アピール

財政逼迫と経済のグローバル化の進展により、中小都市や農山漁村の振興策の柱であった公共投資と工場誘致の低迷が続いており、人口流出・高齢化の進展と相俟って、当該地域の衰退に拍車がかかっている。

一方で、県都をはじめとする九州の主要都市においては、従来は都市内および周辺地域の消費に拠って立つ商業やサービス業などが基幹産業として位置づけられてきたが、近年はコールセンターやコンテンツ・ソフトウェア産業、通信販売業といった遠隔地を主たる市場とする産業の立地が目立っている。また、主要都市においては中心市街地や駅前の再開発が相次いでおり、生活利便性の向上と新たな雇用を産み出すことで、若者の域外流出の抑制につながるものと期待される。

九州経済の発展を持続させ、東京一極集中に歯止めをかけるためには、各地の核となる主要都市においてこうした動きを加速するとともに、都市の活力を周辺地域に波及させる工夫が重要である。このため、我々企業人は、以下の3点に重点的に取り組むこととする。

### 1. 魅力的な雇用の場の創出

～域外市場を開拓する新規事業への取り組みとインキュベーション機能の強化

我々企業人は、九州域外の市場を開拓する新規事業に積極的に取り組み、新たな雇用の場を創出するとともに、外国人や女性が働きやすい就労環境を整えることで、人材の域外流出に歯止めをかける。

また、自治体と連携して首都圏等に立地する政府関係機関や本社機能の誘致に取り組むとともに、その受け皿となる良質なオフィス空間を提供する。

加えて、ベンチャー企業との取引拡大、起業家に対するアドバイスあるいは投資・融資を積極的に行い、都市が持つインキュベーション機能を強化し、九州の次代を担う企業の輩出を促す。

こうした取り組みを活発化させるため、国や自治体に対して、本社機能移転に対する優遇措置の拡充、その受け皿となるオフィス整備を促進するための都心部における容積率の緩和、そして、ベンチャー企業に対する支援の拡充を求める。

### 2. 若者や観光客を惹きつける都市空間の形成

～外国人が魅力を感じる個性あるまちづくりの推進

我々企業人は、都市における小売、サービス、飲食などの事業を通じて都市居住者の生活利便性の向上に貢献する。加えて、グレードの高いホテルの整備を始め、免税店の設置、Wi-Fi 環境の充実やハラル対応、案内標識やウェブサイト等の多言語対応など、きめ細かなサービスを充実させることで、外国人が魅力を感じ、訪れやすいまちづくりを推進する。

また、自治体や大学、NPO などとの連携をこれまで以上に強化し、地域の文化や歴史を尊重した個性あるまちづくりに取り組む。とりわけ、若者や個人事業者を巻き込みながらビルや民家のリノベーションなどを進め、都市コミュニティの強化を図ることで、まちへの愛着や誇りを育むとともに、新たな価値を創造する。

### 3. 都市の活力を周辺部に波及させる地域間連携の推進

～地域の産品を活用した商品開発と農山漁村への観光客の誘導

我々企業人は、地域の産品を用いた商品を開発し、都市内や域外での販売を推進することで農山漁村の活性化に貢献する。

また、外国人を始めとする観光客を都市から農山漁村に誘導するため、自治体等と連携して情報発信強化や交通アクセスの改善に取り組み、新たな観光資源の開発や魅力ある宿泊施設の整備を後押しする。

以上

平成 27 年 10 月 15 日

九州経済同友会

代表委員 貫 正義

代表委員 玉川 文生

福岡経済同友会

佐賀経済同友会

長崎経済同友会

熊本経済同友会

大分経済同友会

宮崎経済同友会

鹿児島経済同友会

沖縄経済同友会